

平成 23 年 5 月 13 日 記者会見 質疑応答（大阪）

発表内容：平成 22 年度 決算について

日 時：平成 23 年 5 月 13 日（金） 15 時 55 分～16 時 40 分

場 所：日銀金融記者クラブ（大阪）

発 表 者：檜垣社長、岩田社長、池田社長

【質疑応答】

Q. 公的資金の返済が進み、国の議決権も大きく下がった。これまでのりそなと大きく変わったのは？

（檜垣社長）

A. 大きく変わったのは株主の数が増えたことです。これまで以上に業績や戦略に対する高い説明責任が求められるようになったと考えています。今までの戦略については間違っていないと思っていますが、それが十分マーケットに説明できていたかといえば、まだまだ高度化・レベルアップが必要であると考えています。多くの投資家の期待に応えられるようなことを今後考えていきたいと思えます。

また、今般の役員人事の中でグループ戦略部長を執行役に昇格させています。IR の強化を狙いとして、IR に強い役員を一名増員しました。

Q. プルダニア銀行が上場・株式公開するような計画は？

（檜垣社長）

A. 上場・公開するという計画は持っていません。プルダニア銀行は 50 年以上の歴史があり、現地の企業・個人との取引も強い会社です。日系企業とも多くの取引をいただいています。我々の国際戦略の中で一つの重要な機能であると考えています。その機能の発展に資するということであれば上場という選択肢もあるかもしれないし、このまま今の機能を強化していくということも考えられます。パートナーである東亜銀行ともいろいろ協議をしています。資本増強等を含めた貸出余力の増強も視野に入れていきます。今般、静岡銀行から出資をいただいた上で、静岡銀行のお客さまに対して金融機能を提供するという事を通じてプルダニア銀行のさらなる態勢強化をしたいと考えています。

（岩田社長）

A. アジア戦略についてご説明いたします。私どもはプルダニア銀行でバンキングができませんが、その他の拠点は出張所であり、バンキング業務ができません。出張所は情報活動を中心にやらなければならない。言い換えれば情報活動に専念できる拠点ということになります。いろいろなところでメガバンクが顧客サービスを提供されていますが、我々の主要顧客である中堅中小企業がこれからアジアを目指していく場合に、そのサポートをより緊密丁寧に行えるのは我々のネットワークでも十分に可能であると考えています。むしろ、情報活動に専念できる分、我々のほうがやり易いと思っています。バンコク銀行のホーチミン支店にジャパンデスクを設置し、一名派遣しました。直接のオフィスではありませんが、インドにて様々な情報活動を行える体制を JETRO を通じて整えました。お客さまのニーズにしっかりお応えできる体制整備を進めていきたいと思えます。

以上